

20022

ステントの種類による伸長度の差に関する冠動脈CTを用いた検討

【背景・目的】最近、冠動脈インターベンション(PCI)を施行した際にステントが伸びる現象が報告されている。当院でもステントをファントム内に挿入する実験を行ったところ、ステントストラッドの形状やポストバルーンの種類によっては伸長するケースが確認された。そこで今回PCIを施行し、フォローUPで冠動脈CTを施行した症例において、ステントの伸長度を検討したので報告する。【方法】2012年1月から2013年5月までに、当院にてPCI後のフォローアップ目的に施行した冠動脈CT、連続104例、158病変について検討した。CT画像を解析し、CT所見におけるステント長を計測し、実際に挿入されたステントサイズと比較した。【結果】ステントのオーバーラップなどにより、93病変においてCTによるステント長の測定は困難であり、残りの65病変において評価を行った。クローズドステントの延長は平均1.9%であったが、その他のステントは平均6.5%の延長が確認され、有意差が認められた。(P<0.001)【考察】クローズドセル構造のステントは、他のオープンセル構造のステントより延長しにくい可能性が考えられた。ポストバルーンの種類や圧、留置された病変の特性なども影響する可能性がある。【結語】冠動脈CTによる評価でもステントの延長が認められた。クローズドステントは他のステントと比較し、有意に延長しにくいことが確認された。今後はステントの特性を更に理解したうえでの治療が必要であると考えられる。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分～ 時 分

受付番号

演題番号